

## 世界はどのような希望か

河本英夫（東洋大学）

世界は、際限がないという意味での無限性(無際限性)を持ち合わせている。

世界はそれが何であるかを定めるための手掛かりが過少である。認識がそれに対してつねに過少になるような事象がある。(cf、死後の世界、神、魂の行方)

世界は変化しうる。世界は別様でもありうる。別様でありうることの変性の範囲をあらかじめ決めることができない。その場合に、人間も人間の能力も別様である可能性につねに触れ続けている。

世界は、多くの問いに対して解答不能性をもつ。世界の重さは、どのようなものか。世界の形はどのようなものか。たとえどのような解答をあたえた場合でも、確認しようがない。どのような解答への試みも、それが完結しない可能態である。

そのため世界の希望を語るさいに、世界内の人間の位置価によって微妙に内実が異なる。主要には、知覚にともなう世界、認識にともなう世界、行為にともなう世界の 3 区分が成立し、それぞれそれに対応する希望の内実は、微妙にニュアンスを異にする。